

町の“記憶”と
“いま”を結びつきたい

よ市の仕掛け人たち

よ市成功の裏に、かつてのよ市を知り、若い実行委員長を支えた人達があります。代表して3人にお話を伺いました。

菊池 良一さん (中)

「よろづ園」を経営。
大槌商工会、末広町商店会会長。

赤崎 潤さん (左)

喫茶「夢宇民」を経営。よ市では自らのバンドでステージに参加。



岩間 充さん (右)

「岩喜酒店」を経営。実行委員会事務局を務める。

赤崎 よ市復活のきっかけは、商店会の事業計画に、夏祭りの復活というのがあったんです。震災の年の7月頃から、みんなちりぢりだったけれど月一ぐらいで集まって話し合っていました。

菊池 最初はこじんまりとやる予定で、ここまで大きな祭りは予定していませんでした(笑)

赤崎 お客さんや、町方に住む人も戻ってきてくれるようにという思いで開催しました。あとは、勝手にまちびらきのつもりで。

岩間 末広町はまちびらき行事をしていなかったからね。

菊池 商店街が始まったことを知らせたい、というのもあったね。ここに店があるよ、と。

岩間 残念ながら天気恵まれなかったけど、お客さんがたくさん来てくれた。のべ3,000人くらい。本当によかったです。

菊池 でも昔のよ市は、二日間でのべ三万人も人が集まったからね。

赤崎 懐かしいね。当時は盆踊りがすたれてきた時代で、入れ替わるようによ市が始まって。

岩間 人が多くてすれ違うのも大変なくらいだったね。

菊池 記憶にあるのは、地区対抗で子供たちの綱引き大会。歩行者天国の真ん中で。震災後、綱が一本だけ流されずに出てきて。今も家にあるよ。

赤崎 今40歳前後の人達が綱引きをやっていたんじゃないかな。カラオケ大会もやっていたね。手作りのステージをみんなで作ってさ。

岩間 昔ほどとはいかないけど、開催してよかったと思います。多くの人に協力や応援も頂きました。

菊池 今回は自分たちがやってきたことを引き継ぐつもりで、鈴藤商店の藤洋くんをリーダーに、若いメンバーに頑張ってもらいました。

赤崎 町の「記憶」と、「いま」を結びつきたい。それには、やっぱり「人」なんだよね。

岩間 もっと町に家が建ってくればと思います。帰り道、夕飯の支度の匂いがしてくるような。

赤崎 町方ならではの情景だね。

菊池 僕らも今まで全てうまくいったわけじゃない。こういう取り組みをまたみんなで心を一つにやっていきます。

町ににぎわいを ～よ市復活～



8月12日、末広町通りで、震災後初となる「よ市(夏祭り)」が開催されました。鈴藤商店、鈴木藤洋代表を実行委員長とし、末広町商店会を中心に町内事業者などが集まり、商店街や町の活性化につなげようと、歴史あるイベントを復活させました。

当日はあいにくのどしや降りでしたが、6年ぶりに開催される「よ市」への町の人々の注目度は高く、朝から開催中止かの問い合わせが相次ぎました。実行委員会の判断は決行。開会セレモニーでは、この日一番とも言える強い雨の中、多くの町民が会場を訪れました。イベントでは、ゲストによるライブや歌謡ショー、町内のバンドによるステージがにぎやかに繰り広げられたほか、商店会などによる出店、大槌町派遣職員OBによる全国各地の特産品販売などが催され、子どもからお年寄りまで多くの人が通りを行き交いました。

雨は止みませんでしたでしたが、会場は終了の夜9時までににぎわいを見せました。



1 缶詰釣りを楽しむ子どもたち 2 開会セレモニーで行われた餅まき 3 アンダーパスとおさなご幼稚園児のダンス 4 様々な特産品が並んだ大槌町応援職員の会ブース 5 夜になっても多くのお客さんでにぎわった